

## 花山小で観梅会

### 今年の記念植樹中止

花山梅林会（儀野彰夫代表）の観梅会が3月17日、花山小学校の裏山で開かれました。朝から小雨模様で肌寒く、肝心の梅の花は、紅梅、白梅とも盛りを過ぎた感がありました。ホームページに掲載していたこともあって、午前中、他区からも団体で観梅に来られていました。10時ごろ、一旦雨が止んだので、校舎の渡り廊下で、温かい甘酒とコーヒーをいただきながら歓談し記念写真を撮りました。

花山小学校裏山の梅林は、卒業生が卒業記念にこれまで約900本を植樹していますが、今年はスペースがなく、記念植樹は中止となったそうです。花山梅林会の皆さんは、神戸一？の梅林を目指して、植樹や手入れに頑張っています。

（取材 木田育義・東大池在住）



⑤ 満開の花山小の梅林  
甘酒で乾杯する参加者⑤

## オレンジリボン運動

2004年に栃木県で幼い兄弟が虐待で死亡した事件を受けて、児童虐待防止をめざす運動が2005年から始まり、全国に広まった。



## 児相の電話相談に携わって

●南形 徹（生環14期・惣山町在住）

親の暴力で幼い子が亡くなったり、心が傷ついたりする〈児童虐待〉が最近、マスコミでも大きく取り上げられるようになった。虐待相談は全国で13万件を超える（2018年度）。私が関わっている神戸市だけでも1548件（18年度）もあり、年々劇的に増加しているのが現状だ。私はこの10年、ボランティアで児童相談所（児相）の電話相談員をしており、ナマの訴えを聞くお手伝いをしている。

虐待は身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト（育児放棄）の4つに分けられ、心理的虐待（言葉の暴力）が6割くらいで圧倒的に多い。背景には社会的関心が高まったこと、警察が非行や徘徊も児相と連携して処理する方向に転換したことが大きい。

虐待相談や近所からの通報は夜間が圧倒的に多い。

したがって私たちも夕方から電話の前で待機する。「マンションの上の階から毎晩親の怒鳴り声や子供の泣き声が聞こえる。虐待と違うか」といった近所からの通報。「出ていけ、と親に叱られた」という中学生の訴え。「繁華街で中学生を補導した」「家出してきた幼い兄弟を保護している」という警察からの連絡。こうした電話が一夜に数件はかかる。具体的に、丁寧に話を聞いてあげて、アドバイスしたり責任者に連絡したりするのが、われわれの役割だ。

近ごろ、強調されるようになったのが心理的虐待。虐待するのは実の父・母が圧倒的に多く、子どもの前で夫婦喧嘩をするのも（面前DVで）アウトになる。

189 いちはやく

児童虐待の社会的関心の高まりに乗って、24時間OKの全国共通の通報ダイヤル「189（いはやく）」が設けられた。どこから架けても最寄りの（住所地の）児童相談所へつながるので、虐待じゃないかな、と思ったら気軽に電話してほしい。

この仕事を続けてこられたのは、電話を通じて社会と繋がっている実感があり、興味も遣り甲斐もあるからではないか、と思っている。電話相談に関心のある方は、グループ〈わ〉にぜひ相談してほしい。

